



文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」

東京から日本就職を目指すなら東洋大学

留学生の日本就職を入学から卒業までしっかりサポート

留学生就職促進プログラム概要

ビジネス日本語を学ぶなら東洋大学

日本企業が留学生を採用する際に最も重視する技能はビジネス日本語です。東洋大学では、学術的な日本語だけでなく、ビジネス日本語も学び、高度な日本語運用能力を身につけることができます。

日本でインターンシップを行うなら東洋大学

東洋大学では、独自プログラムとして、東京および魅力ある地方都市（島根、石川、茨城など）で、豊富なインターンシップ機会を留学生に提供しています。そのため、在学中から社会でも活動することができ、その就業体験により留学生の就職選択肢が広がります。

日本で就職を目指すなら東洋大学

日本の中心・東京の大学で学びながら、地方の大学と密に連携しているため、地方の文化も知り、日本文化の多様性も学ぶことで日本就職につなげます。

充実の就職支援奨学金

日本で就職を目指す留学生には特別奨学金を支給しています。
H30年実績：576,000円×16名、360,000円×3名
※金額は1年間の合計金額となります。

優秀留学生表彰

条件を満たした優秀留学生を大学から表彰します。
H30年実績：優秀賞5名、奨励賞8名

東洋大学は、留学生の日本就職を積極的に支援している大学として、日本政府（文部科学省）の「留学生就職促進プログラム」に採択された東京で唯一の大学です。

留学生就職促進プログラムHP：

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/I-Turn-Employment-Promotion-Program/>



東洋大学HP：

<http://www.toyo.ac.jp/>





カリキュラム概要

高い「就職力」を養う充実のカリキュラム

各学部・専攻の専門教育+段階的な日本語教育・キャリア教育・インターンシップ

- 日本語教育(ビジネス日本語含む): 週3コマのレベル別日本語講座
- 高い「就職力」: 就職・キャリア支援部門が就職活動を全面サポート

	日本語教育		キャリア教育+インターンシップ	
	正課	課外	正課	課外
4年生	各種サポートを継続しながら日本で就職活動 東京で日本就職!!			
3年生	ビジネス日本語 あらゆるビジネスシーンで日本語を活用できる能力の育成⇒ビジネス日本語能力テスト最高レベルJ1+合格!!		日本事情上級 母国と比較しながら日本を理解し、実践する	就職支援イベント <ul style="list-style-type: none"> ● 合同企業説明会 ● 就職セミナー(就職・キャリア支援部門) インターンシップ <ul style="list-style-type: none"> ● 留学生就職支援法人による東京近郊インターンシップ ● 地方大学や地方公共団体と連携した地方インターンシップツアーや地方企業見学(島根・石川・日立)
2年生	超級日本語 幅広いビジネスシーンで日本語によるコミュニケーションができる能力の育成	ビジネス日本語 春夏秋の課外講座+ビジネス日本語能力テスト団体受験補助	日本事情中級 母国と比較しながら日本についての理解に努める	
1年生	上級日本語 日常生活の中で、幅広い場面で日本語を活用できる能力の育成		国際キャリア概論 日本の就職活動やビジネス文化について留学生の視点から考え理解する 日本事情入門 日本についての基礎知識を学ぶ	



各プログラム概要

ビジネス日本語

正課講義のほかに年に3度(春夏秋)の課外講座を実施
+ビジネス日本語能力テストBJT団体受験補助

➡ BJT最上級J1+に日本屈指5名の合格者を輩出!

H30年度例

春学期: BJT対策講座中級/上級(各級全8回)

夏学期: ビジネス日本語ピンポイント講座(全10回)

求められるマナーとスキル①②、BJTビジネス日本語能力テストについて、ビジネス日本語能力テストBJTを通してビジネスシーンの語彙・表現・ビジネス文書やメールの書き方などを学ぶ①②③④⑤、さまざまなメールから学ぶ敬語表現①②

秋学期: BJT対策講座初級/上級(各級全8回)

	初級	中級	上級
目的	BJTテスト受験の前提となる必要知識を身につける	BJTテスト概要や必要なスキルを学び、テスト受験の心構えを身につける	模擬テストを繰り返し解くことで、テスト形式や問題の特性を知り、より実践的なスキルを身に付ける
対象	東洋大学に在籍する外国人留学生でBJTテストを受験したことがない学生	東洋大学に在籍する外国人留学生でBJTテストを受験したことがあり、J2以下の学生	東洋大学に在籍する外国人留学生で、BJTテストでJ1を取得し、さらにJ1+を目指す学生



インターンシップ

東京近郊インターンシップ

- 夏休み・春休みの長期休暇を利用して東京近郊でインターンシップやイベント参加
 - インターンシップだけでなく日本の就職活動でも役立つ説明会や研修を開催
 - 履歴書や面接のサポート
- ➔ インターンシップを通じて日本の就職活動やビジネスに関する知識を学び実践！
さらに要件を満たすと単位取得も可能！

H30年紹介業種（一部抜粋）

コンサルティング、マーケティング、サービス、留学生支援など

	説明会 (1コマ)	事前研修① (1コマ)	事前研修② (1コマ)	インターンシップ・ イベント参加	事後研修 (1コマ)
「海外実習」 振替希望(2単位)	○	○	○	合計7日以上 60時間以上	○
「短期海外実習」 振替希望(1単位)	○	○	○	合計4日以上 30時間以上	○
単位振替を希望しない	○	○	○	任意	○
提出必須課題	アンケート回答, 履歴書作成, 面談受講	研修課題①	研修課題②	参加報告書	研修課題③

・国際教育センター開設科目に限る。各学部学科開設科目に振替を行う場合は、その要件に従うこと
・説明会、事前研修、事後研修は原則的に参加を求めるが、どうしても参加できない場合は、提出必須課題のほかに別の課題提出を求める（例：当日配布資料の要約文や感想文など）

地方インターンシップ

- 夏休みや春休みを利用して地方でインターンシップ
 - 大学・地方公共団体のセミナーや地方見学を通じて文化や生活、産業を学ぶ
 - 事前・事後学習を通じて地方への理解を深める
- ➔ 東京だけではなく地方を知ることで日本の多様性を知り、日本での就職機会が広がる！
さらに要件を満たすと単位取得も可能！

H30年実施ツアー



地方課題解決合宿型インターンシップツアー石川コース(夏・10日間)
地方課題解決合宿型インターンシップツアー島根コース(夏・11日間)
石川県インターンシップツアー探索編&解決編(冬・3日間&春7日間)



優秀留学生表彰

留学生就職促進プログラム内で条件を満たした留学生を優秀留学生として大学が表彰

➡ 大学での実績をもとに日本で就職活動、そして内定へ！

	① 日本語カテスト	② GPA	③ インターンシップ・プログラム(入学後)
 優秀賞	BJT J1+取得	3.6以上	60時間以上(原則として10日以上)の インターンシップを通じ、 日本の雇用文化を習熟していること
 奨励賞	BJT J1取得	3.2以上	30時間以上(原則として5日以上)の インターンシップを通じ、 日本の雇用文化を理解していること





担当者インタビュー

留学生が活躍できる国内地域の選択肢を広げていきたい。

就職支援の先にある、人間的成長を。

本プログラムが開始してまだ2年目ですが、インターンシップや地方企業の見学ツアーにはこれまでに延べ170名の留学生が参加しました。また、日本語講座を受講した留学生のうち、『BJTビジネス日本語能力テスト』の最高スコア「J1+」には5名が合格しました。各キャンパスの就職・キャリア支援担当との連携により、留学生の国内就職率は上昇している傾向です。

留学生が日本で就職する選択肢を広げることが目的のこのプログラムは、実際に地方都市を訪れ、その地域との交流を通じて東京とは違う地方の魅力を感じる留学生もいれば、地域振興のためのアイデアを提案する留学生もいます。東京と地方都市の両方を体感することで、日本で就職することへの興味が一段と増していきます。「なぜ日本で学ぶのか」「どのような仕事が適しているのか」といったキャリア意識の確立ができること。単なる就職支援を超えた、本学が進めている「東洋グローバルリーダー(TGL)」育成の目指す方向性と合致しています。

留学生と地方企業の架け橋に。

今後は、留学生に限らず日本人学生や企業と繋がるコミュニティとしてはもちろん、ダイバーシティを意識したさまざまな学生と地域とのハブ(基点)を目指したいです。その一つとして、地方都市の企業や自治体を対象に、異文化理解や留学生の雇用体制を整えるためのセミナーの開催を計画しています。将来的には本学が、「全国の留学生就職における拠点」として認知してもらえると嬉しいです。





BJT J1+取得者インタビュー

敬語は普段接する機会がない

接することのない日本語、例えば普段はビジネス用語って使わないと思うんですよ。ほかに、ことわざとかもあんまり使わない、特に最近の人とかは友達と話しててもあまり使わないと思います。それで、それに接する方法としてことばを意識するという感じですね。

先に見て目星をつける

だから多分、違うんだらうなあって思って流すんじゃなくて一応これだらうって目星をつけておいて、さらに残りも聞いていくっていうふうにした方がいい。

聴解・聴読解：表示された時に情報を読み取る (何か特別な解き方みたいのはありましたか?)

私はもう問題が切り替わったときに先に把握しておく、ある程度やっぱり把握しておいて、それで問題が流れたと同時に探していくという感じでしたね。

聴解問題：話者の関係性

誰が誰に言っているのか、例えば偉い人が言っているのか、下の人が上の人に言っているのかというポイントが捉えられれば十分解けますね。

読解問題：不必要な情報から重要なものを探す

文章の場合は、ある程度連想ができたりとか、あと意外と重要じゃなかったりする部分もありますよね。だから、一番伝えたい文があって、さらに日本語ってけっこうまわりくどいと思うんですよ。例えばビジネスの場でこう最初に挨拶があって、一番言いたいことを言って、それで最後になんかよろしくお願ひしますみたいな。やっぱりこれを先に見つけて、だいたいこういうことかなあと目星をつけてやるしかないんじゃないかと思います。



BJT J1+取得者インタビュー

読解問題の主語について

私が難しかったのは、その括弧のところが一番最後のなんとかしましたのところだったんですが、主語を変えるだけで上司が言ったのか、上司が言われたのかっていうのがガラッと変わってしまうような問題だったので、そこで誰が言ってるのっていうのを冷静に考えるようにしました。

普段の学習：意識的に敬語を学ぶ

普段あまり敬語を使う場面がなくて、あまり勉強する機会もなかなかないんですけど、教授にメールをしたりとか、あとアルバイトで敬語を使うことが必要なときに周りに相談したり、意見を聞いたりして、こう普段からなるべく触れるようにしているからかなって思います。

普段取り組んでいること：読書マンガ

普段からやっぱり本とか読むといいです。最近だとマンガでもすごくいい。参考になるような日本語もよく出ています。また日常会話とかでみなど話しているときに敬語ってどうやって話せばいいのかとかそういうのはよく相談したり、参考にしたりしているからだと思います。

模擬問題が重要

模擬問題を使って、練習していくことが、一番いい方法だと思いますね。